様　式　Ｆ－７－１

# 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成２３年度）

1. 機関番号　4 2 6 7 6

2. 研究機関名　大妻女子大学短期大学部

3. 研究種目名　挑戦的萌芽研究

4. 補助事業期間　平成２３年度～平成２５年度

5. 課題番号　2 3 6 5 2 0 5 5

6. 研究課題　欧米との比較を介した日本近代文学及び映画における死の表象の再構築

7. 研究代表者

| 研究者番号 | 研究代表者名 | 所属部局名 | 職名 |
|---|---|---|---|
| 0 0 3 4 1 9 2 5 | キドノ　トモユキ<br>城殿　智行 | 国文科 | 准教授 |

8. 研究分担者

| 研究者番号 | 研究分担者名 | 所属研究機関名・部局名 | 職名 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

9. 研究実績の概要

「研究の目的」に明記した通り、日本近代文学及び映画における死の表象の歴史的な把握を試みる本研究において肝要なのは、厳密に言えば思考することも表象することも不可能な死が、言語及び映像によっていかに語り損ねられてきたのかをとらえようとする点にある。つまり単に死の表象一覧を製作するのではなく、むしろ死をめぐる表象の不可能性が、歴史的な観点から見て、どのように変移したのかを跡づけようと試みる点に、主眼がある。

そうした観点から日本近代文学をとらえ直した場合に、避けて通れない存在が、三島由紀夫である。作品の主題として繰り返し死を描き、死に対する屈折した態度を示し続けたばかりではなく、周知のように、半ば演出された自死を遂げる三島は、畢生の大作である『豊饒の海』４部作において、自身の死生観を集大成しようと試みた観がある。就中、三島が仏教への傾斜を深めた第3作『暁の寺』を中心として、題材に選択されたバンコク現地調査及び資料収集を試みた。『暁の寺』において主題化された輪廻転生は、４部作の末尾に表現された虚無感と並んで、作品全体の解釈を左右するばかりではなく、三島の死生観を評価する最も重要な論点であるように思われる。

また、「研究実施計画」に記載した通り、Ｐ・アリエスを軸として、西欧古典における死のイメージの変遷をふまえ、理論的な基礎を形作るため、イタリアのルネッサンス期前後を中心として資料収集を行った。